

# [ 講義内容の調べ方 ]

## 月別時間割

09:00 10:30	○○○○	100-0101
1 □ 実務講座カリキュラムガイダンス(1)		
10:40 12:10	センター教員	100-0501
2 □ 入門シリーズ(職場巡視のポイント)(1)	専門 1.5	

「月別時間割」の科目コードを確認し、「管理部別カリキュラム内容一覧」で講義内容を確認してください

科目コードの先頭の番号が管理部区分を示します  
100-0501

- 《管理部区分》
- 1：総括管理部
  - 2：健康管理部
  - 3：作業管理部
  - 4：作業環境管理部

科目コードで  
検索

## 管理部別 カリキュラム内容一覧

## 令和5年度 総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	<input type="checkbox"/> 入門シリーズ(職場巡視のポイント) 100-05 (01-04)	センター教員	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	○/○ (○) ○/○ (○)	コマ数	産業医活動は、産業医が職場を理解し、職場も産業医を認知し、産業医と職場が一緒に考え、ともに行動できるようになり、はじめて意義深いものとなる。このステップにおいて、職場巡視は極めて重要な活動であり、「産業医活動は、職場巡視にはじまり、職場巡視に終わる」ともいわれている。本講義では、職場巡視の目的・意義を理解し、巡視における基本的認識を深める。また、職場巡視の実施方法・基本的着眼点さらには注意事項について学習する。	
					0		
					医師会認定 単位数区分  専門 1.5		
6	<input checked="" type="checkbox"/> 企業における健康危機管理 100-06 (01-02)	○○○○	講義 実習	○/○ (○) ○/○ (○)	コマ数  1	目的：産業医として必要な危機管理能力を獲得する考え方を模索する 講義の具体的内容：産業保健を取り巻く環境は、①就業年齢の高齢化、②流通のグローバル化、③新興感染症の出現等、多様化している。これからの産業医には、これらの危機の多	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	入門シリーズ（作業管理概論） 300-01(01-02)	東 秀 憲	講義  遠隔講義  50名	6/ 1（木） 1/ 9（火）	コマ数	【到達目標】 労働衛生の3管理における作業管理について、どのような業務を行うのか概要を把握する。作業管理における作業分析の方法や労働衛生保護具の概要について把握する。実務講座における作業管理部の開講科目について把握する。 【概要】入門編として、作業管理とは何か、またどのような業務を行うのかについて紹介する。まず、我が国の業務上疾病の発生について、経年的な推移と疾病の原因を概観する。次に作業管理の位置付けについて、労働衛生の目標との関連、企業における諸管理との関連について紹介し、また、作業管理と関連の深い人間工学及び労働衛生工学について概説する。一方、作業分析の方法、労働衛生保護具の選定と管理の方法など、そして法規や通達に規定されている作業管理の事例などについても簡単に紹介する。さらに、作業管理部の実務講座のそれぞれの内容についても一部紹介する。	
					0		
					医師会認定 単位数区分		
2	安全管理の実際 300-02(01-02)	弘 中 知行 小 林 和也	講義  遠隔講義  50名	7/19（水） 2/13（火）	コマ数	【到達目標】 産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる。 【概要】 企業における安全衛生管理は、安全管理、職場環境管理、健康管理が三位一体となって推進されている。産業医は、健康管理や職場環境管理等（労働安全衛生規則第14条に定める職務）の他に、安全衛生パトロールへの参加（同規則第15条）、安全衛生委員会への出席（労働安全衛生法第19条）や、法に定められていない所でも、災害発生時の救急対応やその教育、また、ヒューマンエラーによる労働災害を防止するため心理学的側面からの一助を求められるなど、安全管理との関わりを持たざるを得ない。本講義では、鉄鋼会社の実例により、労働災害の現状及び企業における安全管理の基本（労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント活動、社員の安全意識向上やルール遵守のための躰活動、作業請負会社と連携した安全衛生活動など）について学習し、産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる力を獲得することを目指す。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
3	ヒューマンエラー 300-03(01-02)	庄 司 卓 郎	講義  遠隔講義  50名	6/14（水） 1/19（金）	コマ数	【到達目標】 ヒューマンエラー事例を検討し根本原因、背景要因を究明できる。ヒューマンエラー防止対策を考案できる。 【概要】 近年、作業現場において、ヒューマンエラーや不安全行動と関連した労働災害の発生が多く発生している。企業はヒューマンエラーを問題視し、その防止に頭を悩ませているが、なかなか減少しないのが現状である。事故や災害の分析では、ヒューマンエラーや不安全行動が“原因”として扱われることもあるが、実際にはヒューマンエラーや不安全行動が発生する背景には作業の問題、組織・管理の問題をはじめとして、さまざまな要因が存在する。そして、その防止にあたっては、作業設備の改善や管理・監督の強化などの現場レベルの対策だけでなく、作業員の安全意識の高揚や自主的な安全対策への参加など組織全体の安全文化の醸成が重要である。本講義では、ヒューマンエラーや不安全行動の誘発要因や防止対策の検討を行うとともに、分析方法を体験する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
4	リスク認知と安全意識 300-04(01-02)	庄 司 卓 郎	参加型講義  遠隔講義  50名	6/28（水） 3/ 5（火）	コマ数	【到達目標】 安全意識の測定を実践できるようになる。安全意識を高めるような組織の施策を立案できるようになる。リスク認知のバイアスを理解できる。リスク感受性を高める方法を提案できる。 【概要】 リスクアセスメントでは、危険性の検出と特定、危険性の評価・見積もりを行う。一般に人が危険を認識し評価する過程（リスク認知）にはバイアスが存在することが知られている。そのため、多くの場合は危険を過小評価してしまう。このことが危険軽視、油断、さらには不安全行動につながることも多い。作業員の安全意識高揚のために、安全文化の醸成をはじめとしたさまざまな施策が実施されてきた。近年では行動経済学的手法を用いた安全行動への誘導も試みられている。本講義では、人のリスク認知の性質を学び、安全意識を高揚させ安全行動へと誘導する方法について考える。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

# 令和05年度

# 作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	人間工学チェックリスト 300-05(01-02)	藤原 広明	学内実習  産業医実務研修センター  25名	6/28(水) 2/8(木)	コマ数	【到達目標】 人間工学チェックポイントの意義について理解する。人間工学チェックポイントを職場改善活動において活用できる様になる。 【概要】 1. 人間工学チェックリストとは何か： 対策選択型アクションチェックリストの典型である人間工学チェックリストの構成と対象領域について概説する。従来から広く使われている点検型チェックリストとの相違点について理解する。 2. 人間工学チェックリストをどう使うか： 人間工学チェックリストを利用した職場改善実践やリスクアセスメントの事例をもとにして具体的な使用法を紹介する。潜在リスクの洗い出しに役立つことから、リスクアセスメントを実施する人材養成に活用できる点や、職場改善に構成員全員の参加を促す効果がある点を理解する。 3. 人間工学チェックリストをどう作るか： 対象とする職場に適した人間工学チェックリストの作成法について概説する。作業場を撮影した映像を題材にして、実際にチェックリストを作成・試用するグループワークを通じて理解を深める。	受講される方は、事前に「人間工学チェックポイント」というアプリをダウンロードしておいてください。
					2		
					医師会認定 単位区分		
					実地 3		
6	作業姿勢の評価 300-06(01-02)	山田 晋平	学内実習  産業医実務研修センター  25名	7/10(月) 1/30(火)	コマ数	【到達目標】 OWASとRULAを用いて、作業姿勢に伴う負担を評価できる 【概要】 本実習においては、OWAS法をはじめとする各種作業姿勢評価法について、その基本的考え方および職場におけるその活用法を習得することを目的とする。最初に作業姿勢の評価についての基礎的な知識、およびその活用法について講義形式で習得し、その後、実習形式でOWAS法およびRULA法の使い方を習得する。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					実地 3		
7	職場における腰痛対策の実践 300-07(01-02)	樋口 善之	講義  遠隔講義  25名	6/8(木) 2/29(木)	コマ数	【到達目標】 職場における腰痛の発症要因について理解し、適切な予防策を講じることができる。 【概要】 腰痛は、職場において訴えの多い症状であるが、その対策は困難である。その理由として、腰痛発症の原因が多岐に渡り、単一の原因ではなくそれらの組み合わせによる場合が多いため、発症要因を正しく理解して対策を行う必要があるからである。この講義では、腰痛の発症要因およびその重畳効果について概説し、職場における腰痛発症原因の調査手法およびその対策について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
8	作業性腰痛の予防教育と治療 300-08(01-02)	近藤 晃弘	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	7/14(金) 1/11(木)	コマ数	【到達目標】 腰痛の原因タイプ(屈曲型・伸展型)を分類し、その対処法のエクササイズを指導できるようになる。 【概要】 厚生労働省は「職場における腰痛予防対策指針」を提唱しており、作業性腰痛予防は重要である。中でも製造業における腰痛は労働災害となるだけでなく、労働力・生産性の低下や個人の生涯に関わる問題であり対策が必要である。某航空機部品製造業事業場における腰痛予防対策として、腰痛予防教育を実施している。その教育内容と結果、現状の課題について紹介する。また、実際に行っている腰痛予防体操を実施して頂き、身体機能の改善が動作に及ぼす影響を体感して頂く。 また、理学療法士の視点での評価と治療を紹介し、骨盤不良アライメントや腰痛の発生メカニズムについて説明し、運動器疾患の治療と考え方を共有する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	作業管理の実務（メンタルヘルスと作業管理） 300-09(01-02)	赤 築 秀一郎	講義  産業医実務研修センター  50名	6/15（木） 2/22（木）	コマ数	【到達目標】作業管理を行う上で必要な情報や方法を知ることができる。 【概要】現在の労働安全衛生・産業保健にとって、職場におけるメンタルヘルス対策は最重要課題の一つである。ストレスチェックの結果を活かした作業管理の一つとして、職場ごとのメンタルヘルスの状況を把握し、メンタルヘルス悪化要因を抽出し問題点を改善していく活動を行っている。また、精神疾患で休業し復職する際の業務調整の一例を挙げる。これら早期発見や予防のための作業・作業環境改善指導や面談について、実際に行っている内容を共有し、用いているツールとともに説明をする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
10	作業管理の実務（作業管理活動と職場巡視） 300-10(01-02)	山 田 琢 之	講義  遠隔講義  50名	7/ 7（金） 1/26（金）	コマ数	【到達目標】 将来、独立系産業医（労働衛生コンサルタント）として活躍できるノウハウを身に着ける。 作業管理は予防医学の一環であることへの理解を深める。 【概要】作業管理とは、作業そのものと働く人々の作業態様について分析し、作業負担から生じる健康障害を予防する。そして、問題点の改善（作業時間、作業負担、作業手順、作業姿勢などを検討）が中心の作業管理に加え、第一次予防の快適で楽しく働くことができる職場づくりに寄与することが大切である。労働の場で引き起こされる健康障害や労働災害の根源を学問的に追求するためには職場を知らなくてはならない。作業管理活動を実践するために必ず行わなくてはならないのが「職場巡視」である。「機械 人間系」が「人間工学」といわれるが、「労働の場（職場） 人間系」が「産業保健人間工学」つまり「作業管理」である。労働災害が発生した場合、後日書類を見て検討することは容易だが、そこには現場の苦労や本当の危険は見えてこない。そこで私が経験した職場巡視の体験を報告する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
11	情報機器作業に関する作業管理 300-11(01-02)	川 波 祥 子	講義  遠隔講義  50名	7/14（金） 2/ 2（金）	コマ数	【到達目標】1. 情報機器作業ガイドラインを概説できる。 2 . 作業場の写真を見て問題点と改善提案を3つ以上挙げられる。 【概要】情報機器作業が健康に及ぼす影響には疲労の問題があり、眼精疲労や肩こり等を訴える作業者は多い。これらの症候を予防するためには作業方法、作業時間等の管理を行い、疲労が蓄積しないような対策を講じることが重要である。本講義では、ガイドラインで示される望ましい作業管理を解説し、具体例を提示することで、職場巡視や健康診断事後措置において産業医として適切な指導が行えることを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
12	過重労働対策 300-12(01-02)	宮 崎 洋 介	講義  遠隔講義  50名	7/ 4（火） 2/13（火）	コマ数	【到達目標】 医師として長時間労働者に対する面接指導を適切に実施できる。 【概要】過重労働は長らく社会問題となっており、産業医も企業内で過重労働対策に関わることが多い。本講義では、社会背景や日本の労働状況を踏まえながら、過重労働による健康障害の発生機序や疫学、関係法令を概観し、産業医による過重労働対策について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

# 令和05年度

# 作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	騒音障害防止のためのガイドラインと許容基準 300-13(01-02)	井上 仁 郎	講義  遠隔講義  50名	7/10(月) 2/5(月)	コマ数	【到達目標】騒音障害防止のためのガイドラインを正しく事業所で適用できる。 【概要】騒音性難聴の予防のための騒音職場の健康管理の実態をふまえた作業環境測定・健康管理・労働衛生教育の方法、および、日本産業衛生学会の騒音の許容基準について解説する。「騒音障害防止のためのガイドライン」制定時にはあまり想定されていなかった労働実態（高齢労働者の増加、音源が作業者に近い手持動力工具の普及、管理区分の異なる作業場を移動する作業、日内の騒音の大きな変動がある作業場）への対応や、労働衛生の新知見（欧米で実施の個人曝露測定への流れ、ガイドラインに組み入れられていない衝撃音の評価、雇入時の聴力からの変化を指標とするStandard Threshold Shift、事業場単位で聴力保護対策をマニュアル化するHearing Conservation Program（聴力保護プログラム））についても概説する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
14	障害者のための作業管理 300-14(01-02)	佐 伯 覚	講義  遠隔講義  50名	7/13(木) 2/8(木)	コマ数	【到達目標】 障害者に対する合理的配慮について理解し、説明できる。 障害者の作業管理において、就業能力の評価に必要な情報収集の方法を説明できる。 障害者の作業管理において、適正配置の観点から説明できる。 【概要】外傷性脳損傷、脳卒中などの中途障害例の職場復帰において必要な作業管理について合理的配慮の観点から概説する。復職に際し、作業管理にあたっては身体障害（麻痺重症度、歩行能力日常生活動作能力）や認知機能障害（高次脳機能障害など）に基づく就業能力の評価が重要となる。医療機関や本人から得られる上記の障害に関する情報収集のポイント、それに基づく配慮事項の考え方などについて理解を深める。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
15	職場改善の実例 300-15(01-02)	センター教員	学外実習  学外  20名	7/6(木) 2/15(木)	コマ数	【到達目標】 1. 訪問先の巡視後に労働衛生の観点からコメントを述べる事ができる。 2. 職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】職場をめぐる環境の変化の中で、新たに就業に伴う疲労やストレスの問題が生じている。一方、国民の意識は物質的な豊かさから心の豊かさに変化してきていて、職場における働きやすさが重視されるようになってきている。つまり、疲労やストレスを感じることが少ない快適な職場環境を形成していくことが、きわめて重要となっている。快適な職場環境を形成していくことは、労働者の有する能力の有効な発揮や、職場の活性化にも資するものと考えられる。当実習では企業における取り組みの実例について学外実習形式で学ぶ。	学内者のみ受講可
					3		
					医師会認定 単位数区分		
16	個人用保護具の管理 300-16(01-02)	東 秀 憲	学内実習  産業生態科学研究 所5476号室  50名	6/29(木) 2/1(木)	コマ数	【到達目標】 呼吸用保護具の選択・使用・保守管理について作業管理および作業環境管理と関連づけて実践できる。現場の状況に応じた騒音対策と聴覚保護具の選択・使用について説明できる。手、足、または全身についての有害要因からの保護について説明できる。 【概要】労働現場における健康障害防止策の最終手段として個人用保護具の着用がある。本講義では、防じんマスクや防毒マスクなど呼吸用保護具、耳栓などの聴覚保護具、保護用眼鏡、保護手袋、安全靴などの個人用保護具に関して、その種類や性能について学び、個人用保護具選定の際の基礎知識を得るとともに、可能な範囲で実物を手に取り、個人用保護具の正しい装着法や適切な管理について習得する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 1.5		

# 令和05年度

# 作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	勤務様態と生体リズム 300-17(01-02)	藤原 広明	講義  遠隔講義  50名	6/14(水) 1/10(水)	コマ数	【到達目標】 概日時計によってコントロールされている生体リズムについて、生理学的知識を通じて理解できる様になる。生体リズムの乱れによる問題を抱えている労働者に対して助言・指導ができる様になる。  【概要】 深夜勤や交替勤務などに労働者が従事することによって、通常勤務と比較すると仕事の効率の低下やエラーの発生率の上昇などが見られるだけでなく、健康障害ももたらす。そこにはもちろん睡眠の不足の問題もあるが、生体リズムの乱れがこれらの現象を引き起こしていると考えられている。 本講義では深夜勤や交替勤務の実態とそれに伴う問題について、紹介するとともに、なぜ、深夜勤や交代勤務に従事することによって生体リズムが乱れてしまうのかについて、概日時計によってコントロールされている生体リズムの生理学の知識を通じて理解できるようになることを目指す。 さらに生体リズムの乱れによる問題を抱えている労働者に対してどのような助言・指導をすれば良いのかについて議論する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
18	呼吸用保護具の適正使用 300-18(01-02)	川波 祥子	講義 実習  産業医実務研修センター  20名	7/28(金) 3/6(水)	コマ数	【到達目標】 1. 呼吸用保護具を正しく選択できる。 2. 呼吸用保護具を着用し、フィットテストで漏れ率10%以下を達成できる。  【概要】 労働現場における吸入暴露をする健康障害因子には、粉じんや有毒ガス、細菌・ウイルスなどがあり、これらによる健康障害防止策の最終的手段として呼吸用保護具の着用がある。しかしながら、その効果や限界、ならびに使用方法については、現場で指導にあたっている専門家でも、十分な知識を有していない場合がある。特に呼吸用保護具は使用前に各人がフィットテストを行って自分の顔に合うかを確認する必要があるにもかかわらず、実施されていない企業もまだまだ多い。そこで本講義実習では、自分の顔に合った呼吸用保護具の選択方法と、その適切な装着方法、そしてフィットの確認方法について学ぶこととする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
19	高齢者の作業管理 300-19(01-01)	樋口 善之	講義  遠隔講義  50名	6/20(火) 2/20(火)	コマ数	【到達目標】 高齢者の作業特性を理解し、適切な作業管理を指導できる。  【概要】 職場における労働者の高齢化は、高齢者人口割合の増加と定年の延長により、今後、更に深刻さを増すことが予想される。高齢者が安全かつ健康に働ける職場を提供するためには、加齢による心理的身体的特性の変化を理解し、作業管理を行う必要がある。本講義では、加齢による心理的身体的特性の変化について概説し、その特性の変化に合わせた職場改善の方法論について解説を行う。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
20	職場改善の実例の事後措置 300-20(01-02)	センター教員	学内実習  遠隔講義  20名	7/13(木) 2/22(木)	コマ数	【到達目標】 職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。  【概要】 本講座は、別講座『職場改善の実例』の事後措置として実施する(両方の受講を要する)。本学習では、大学近郊の事業場において職場改善の実例を模擬巡視で学習した結果について、受講者が各自、職場巡視報告書の形にまとめ、内容について検討会で相互に検討する(会議後に報告書を修正し、巡視した事業場の担当産業医へ提出する)。検討会の中で、学習した職場改善について整理し、受講者の視点での更なる改善を提案することで、継続的な職場改善について学ぶ。尚、担当教員の判断により、e-learning上での報告書の添削指導で検討会に代える場合もある。	学内者のみ受講可
					1		
					医師会認定 単位数区分		

